

平成28年度 入学式式辞



皆さん、学部・大学院・特別専攻科へのご入学おめでとうございます。ご来賓の本学後援会の原会長並びに副会長の皆様、および列席の本学理事・副学長、学部長・研究科長とともに心からお祝いしたいと思います。

今年度は、学部として、教育学部 177 名、経済学部 319 名、システム工学部 315 名、観光学部 127 名、全学で 3 年次編入生 30 名が入学されました。大学院として、教育学研究科修士課程 48 名、経済学研究科修士課程 31 名、システム工学研究科博士前期課程 138 名、博士後期課程 9 名、観光学研究科博士前期課程 13 名、博士後期課程 9 名、特別専攻科として、特別支援教育特別専攻科 11 名が入学されました。

皆さん、難関の入学試験をパスされ、晴れ晴れとした気持ちで入学されたことでしょう。また、これまで皆さんを支えてこられたご参列のご家族の皆様も、安堵と期待であふれていらっしゃると思います。その気持ちに伝えられますよう、和歌山大学は、学びやすい教育環境を提供していきます。

和歌山大学の各学部は、大きな改革の中にあります。昨年、システム工学部が、従来の 5 学科制から 1 学科制へと大きな改革を行いました。今年度からは、

経済学部と観光学部も1学科制となり、経済学部・観光学部入学生の皆さんは、この1学科制の初の入学者です。また、教育学部は、教員養成課程に1本化され、初の紀南地域での入試も実施いたしました。

高等教育機関としての大学は、教育と研究の両輪で構成されています。この4月に国際的な研究の拠点となる国際観光学研究センターを設置いたしました。このセンターは、国際的な研究を推進するとともに、アジアの観光学の拠点としての役割も果たします。また、観光学だけでなく、和歌山大学の国際的な研究推進のパイロットセンターの役割も担っています。このように、和歌山大学は、学ぶ環境を社会の変化に適合するように、不断の改革を続けています。さて、皆さんは、大学での学び、研究、クラブ活動、社会活動などから、多くのことを学ばれたことでしょう。これからは、身につけてこられた知識と経験を活かして、様々な分野で、そして国際社会、地域社会で、その能力を存分に発揮して下さい。皆さんの先輩は、国内外の色々な地域で活躍し、その成果を残されています。英国BBC世界世論調査2014-「世界に良い影響を与えている国」レポートの世界ランキングで、日本は第5位として、評価されています。皆さんも、先輩方に続き、世界に貢献できる人材として大いに活躍して頂きたいと思います。

また、少子高齢化が進む中、総務省統計局が公表した2015年国勢調査の速報値では、日本の総人口は1億2711万人であり、2010年の前回調査に比べ94万7千人減少しています。皆さんは、労働力の少なくなった分を、知識の活用や問題解決力により、知的生産性を向上することで補完しなければなりません。皆さんの英知に期待いたします。

近年、国際情勢は非常に不安定で、テロも多発しており、今週初めには、ベルギーでも悲惨なテロがありました。今年度の和歌山大学（国際教育研究センター）主催の留学生による日本語スピーチコンテストでは、マジドゥバ・アンジェリック・レアさんが、「みんなビストロに行こう」の題目で、テロへの反骨心をこめて、フランスの自由の象徴であるビストロに行こうとお話しされました。私達は、世界の人々とともに、テロに負けない世界を創っていかなくてはなりません。今の時代、天変地異や社会不安など世界中で様々な出来事が起こっておりますが、予測できないものや不確実なものを心配しても切りがあり

ません。皆さんには、色々な変化に備えた心掛けを持って、主体的に課題に立ち向かう姿勢を期待いたします。



大学の学びは、高校と大きく違います。大学での学びでは、次のようなことを大切にしてください。

1つ目は、自ら目標をもって、主体的に学ぶことです。

今までは、大学に入学することを目標に受験勉強をされてきたと思います。入学後は、その次の目標に向け、将来の夢を持ってください。社会には様々な職業がありますが、どのような分野で自分を活かすのかを考え、自分自身の将来像をデザインしてください。そして、その将来像に必要な知識や技能を身につけてください。

2つ目は、専門知識をしっかり学び、広い教養を身につけてください。

専門知識は、社会で活躍するための基礎的な力となります。それぞれの分野で力を発揮するには、分野特有の知識や技能が必要です。その専門知識を学ぶ環境を提供するのが高等教育機関としての大学の役割です。社会人になるためには、専門知識を深く学んだことに加えて、高い教養と社会人を身につける必要があります。また、社会で専門的な能力を発揮するには、様々な教養が必要となってきます。皆さんの中には、将来、海外で働く人も多数いることでしょう。語学力はもちろんですが、日本や様々な国の文化や習慣について学んでおく必要があります。

和歌山大学は、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生事業」に採択されました。教養科目の「わかやま」学群を充実し、「わかやま未来学副専攻」を新設いたしました。和歌山をフィールドとして学び、和歌山をはじめ広く国内外で活躍する自信をつけてもらいたいと考えています。

3つ目は、先人の知識を学ぶだけでなく、自ら新たな知識を創造することです。

大学では基礎的な専門教育の後、卒業研究を行ってもらいます。大学で研究するということは、未知なるものを探求して新しい事象や知識を発見すること、また、様々な情報から普遍的な規則を創造することです。研究を通じて、社会の発展、進化に貢献することができます。

昨年度のノーベル賞を覚えておられるでしょうか。物質を構成する最小要素の素粒子ニュートリノに質量があることを発見し、宇宙や物質が誕生した謎の解明に迫る業績で、梶田隆章（かじた たかあき）教授がノーベル物理学賞を受賞され、微生物である放線菌（ほうせんきん）が生成する物質イベルメクチンを発見し、アフリカなどで年間3億人をオンコセルカ症による失明から救っている功績で、大村 智（おおむら さとし）博士がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。

日本の研究力は、世界トップレベルです。研究で大切なのは、従来の常識にとらわれず、何度でも課題に挑戦し、新しい発見を行うことです。本日入学された皆さんの中から、世界に大きな貢献ができる研究者が生まれることを期待しております。

充実した大学生活が送れますように、初心を忘れず頑張ってくださいと思います。

心からの祝福をもって、ご入学の歓迎の挨拶といたします。

2016年4月5日
和歌山大学長 瀧 寛和

